

令和3年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和3年度	作成日	令和4年3月31日
部局名	建設部	部局長名	頭山 龍一

（1）部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

1. 快適で持続可能な都市形成【No.11：住み続けられるまちづくりを】

多彩で循環のある地域の集合体として、活力やにぎわいを高める持続可能なまちづくりを進めます。

誰一人取り残さない共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。

地域の特性に合った、誰もが住みたい、住み続けたいと思う快適な住宅環境づくりを進めます。

景観や自然環境に配慮した誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。

都市づくりと連携した住環境整備及び産業関連インフラの充実を行うため、効率的で計画型の社会資本整備（公共交通、文化・スポーツ施設、教育施設、道路、上下水道、住宅等）を進めます。

共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりを促進します。（公共施設、設備のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化）

2. 国土調査事業の実施【No.11：住み続けられるまちづくりを】

社会資本整備の基盤である国土調査の真庭市全域の早期完了を目指します。

3. 安全・安心なインフラ整備と維持管理【No.11：住み続けられるまちづくりを】

市道の全市的な維持管理方針を定めて良好な道路環境の整備を進めます。

中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化の早期実現を目指します。

橋梁・トンネル等道路重要構造物の長寿命化を図り、持続可能なまちづくりを進めます。

緊急車両の通行が困難な箇所や落石のおそれのある危険箇所を整備し、安全・安心な道路づくりを進めます。

効率的な建築営繕業務の手法の習得により、公共建築物の長寿命化に向けた取組を目指します。

4. 安全・安心で持続可能な上下水道事業の運営【No.6：安全な水とトイレを世界中に】【No.14：海の豊かさを守ろう】

安全安心な水の安定供給を図り、財政健全化に向けた事業を進めます。

水洗化率の向上を図り、下水道による生活排水の浄化により河川環境の水質保全に努めます。

中長期的な視点による施設の更新等により、持続的な下水道機能の確保とコスト低減を図るとともに、効率的な運営管理を目指します。

5. 資源循環型社会の実現とエネルギーエコタウン真庭の推進【No.7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに】

景観との調和や安全性に配慮した自然再生エネルギー設備の導入促進による地域エネルギー自給率100%、「エネルギーエコタウン真庭」の実現に向けた取組を推進します。

(2) 事業成果目標	指標名及び目標値			
1-①真庭まちなか魅力アップ事業の実施 ・令和2年度に改定した真庭市まちづくり計画（真庭市都市計画マスタープラン）に基づき、久世、勝山及び落合地域の中心市街拠点の魅力及び生活環境の向上に資する真庭まちなか魅力アップ事業について、地域とともにまちづくりに関する具体的な事業を検討、決定し、当該事業を着実に実施します。 【取組事項】 ①[久世地域] 事業内容（ポケットパーク整備、道路美化化、無電柱化等）の検討・決定 ⇒ 事業予算要求 ⇒ 事業実施 ②[勝山地域] JR中国勝山駅周辺、勝山町並み保存地区等の魅力アップに資するまちづくりの方針や事業の決定等（部局横断的に実施）	指標:久世地域 ①事業実施、②事業決定に係る地元協議回数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
1-②総合的な空家等対策の実施 ・令和2年度に策定した「真庭市空家等対策計画」に則り、また、空家等を把握・対応を検討する部局横断的な会議を適宜開催し、空家等の利活用の促進によるUIターン者等の獲得や、老朽危険空家等への対策による地域住民の安全で安心な生活環境の確保等、総合的な空家等対策を実施します。 ・特に都市住宅課では、老朽化した危険な空家を除却する際の補助金の交付や、所有者の意識の醸成等、老朽危険空家等対策を行います。 ※利活用に関しては、交流定住推進課で実施	指標:老朽危険空家等の危険部分の除却件数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
1-③市営住宅の長寿命化改善事業の実施 ・真庭市営住宅整備計画（真庭市公営住宅等長寿命化計画）に基づいた市営住宅の長寿命化改善事業を実施し、住宅困窮者の住宅確保に配慮しつつ、市民の資産である市営住宅の有効活用とライフサイクルコストの縮減を図ります。 ・なお、当該計画は令和3年度から令和12年度までの10箇年計画で、全50団地のうち17団地を長寿命化改善することとしており、令和3年度は、市営江川住宅と市営石原住宅の改善事業を実施します。	指標:ライフサイクルコストの縮減効果			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2,231千円	2,231千円	予定どおり長寿命化事業を実施した。	計画に基づいた改善事業（長寿命化修繕）を実施していく。

1-④市営住宅使用料の徴収 ・市営住宅の管理運営のため、文書送付及び電話催告等の方法で、住宅使用料を確実に徴収します。 ※ 令和2年度実績値：97.7%（4月末現在） 令和1年度 97.9% 平成30年度 97.2%	指標：収納率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%	96.27%	未納者に対して、文書送付や電話連絡等での催告を行った。	未納者に対して、更に文書送付や電話催告等で入金を促す必要がある。
1-⑤景観・自然環境と再生可能エネルギーの調和 ・真庭市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例に基づき、特色ある景観、豊かな自然環境等と太陽光発電に代表される再生可能エネルギーの調和を図っている制度について、更なる景観及び自然環境の保全等の観点から、制度を改定します。	指標：制度の改定、審査件数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	9月施行	抑制区域指定9月、条例改正12月	抑制区域指定、条例改正を達成した。太陽光発電設備設置についても、指導助言を行い適正に処理し、同意した。	再生可能エネルギー発電設備設置について、自然環境及び安全安心な生活環境の保全及び形成と再生可能エネルギー源の利用と調和を図っていく。
1-⑥建築営繕業務の一元化を図る 真庭市有施設の新築や大規模改修工事などの建築営繕業務の一元化により、共生社会の実現に向けた、木質化やユニバーサルデザイン化などを取り入れた設計・営繕業務の推進を行います。	指標：公共施設の木質化・ユニバーサル化			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	100%	100%	今年度行った設計や工事については、木質化やユニバーサル化の検討は行った。	引き続き建築物の木質化、ユニバーサル化、利便性や品質の向上の検討を行う。
3-⑥職員の能力開発を進める 職員が講習会に参加することにより、地域資源の木材を活用した木造・CLT建築技術の習得を含む、各種専門的な知識の向上や技術継承を行い、公共建築物の長寿命化の推進を行います。	指標：講習会等の参加			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	課職員1回/人	課職員2回/人	・施設竣工内覧会 参加（津山信用金庫 勝山支店：木造(CLT造+集成材)平屋建て） ・CLT普及セミナー 参加	木造(CLT)建築技術だけではなく、省エネルギー化に向けた知識も深める。

2-①国土調査事業の計画的推進 ・国土調査中の5地区の早期完了を目指し、補助金を最大限活用して、目標面積1.97km ² を完全実施することにより進捗率の向上を図ります。 ・また、今後実施する勝山・落合地区の市街地地域の調査に向け、相続人追跡等の事前準備を行い、次年度以降に備えます。 (全体計画面積756.34km ² に対して令和3年度末、完了予定面積727.50km ²)	指標:現地調査面積			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	1.97km ² (全体進捗率96.19%)	1.50km ² (全体進捗率96.12%)	補助金内示額に合わせた事業計画の変更が生じ、目標の現地調査面積が減少したが、変更後の事業計画どおり実施することが出来た。	補助金見込額を踏まえた次年度以降の事業計画を立てる必要がある。
2-②国土調査事業の効率化 ・令和4年度以降の業務効率化を図るため、現在の直営による現地調査の手法に加え、外部委託やリモートセンシングデータを活用した調査の導入を検討します。	指標:令和4年度以降の現地調査方針の策定			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	年度内	方針の決定	リモートセンシングの視察及び業者を交えた外部委託の検討を行い、令和4年度に2地区を直営から外部委託に切り替えることが出来た。	令和4年度に2地区を外部委託で実施しながら、残り3地区についても外部委託可能かなど検討が必要である。
3-①市道維持管理方針策定 市民が市道を永続的に安心して使用するために、予防保全型修繕と地域住民の協力を得て維持管理をする考え方を取り入れ、全市的に向かう方向としての方針を定めます。 除草作業等は、機械化による省力化や地域力を活かした維持管理の方法を研究します。	指標:全市的な維持管理方針			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	指標:全市的な維持管理方針 目標値:年度内に策定	令和4年度から市民による市道除草を支援する道路愛護活動奨励事業を実施する。	道路維持管理計画(仮称)に基づき、道路を良好な状態に維持するため、市民協働による除草や見守りを方針とし、市民団体が道路除草と簡易的な清掃及び異常箇所の通報をする「道路愛護活動奨励事業」を制度化できた。	道路愛護活動を広く市民に推進するため、様々な広報活動を実施する。 制度は、市民の意見を聴きながら持続できる仕組みとなるよう継続して検討する。

3-②GISを活用した道路等インフラ情報の一元管理 道路等のインフラマネジメントに必要な各種データを位置情報と関連付けて一元管理する手法を検討します。 一元管理することで関連業務の効率化を図り、維持管理データ等の活用により関係インフラ施設のLCC低減や保全費用の平準化を図ることを目的とします。	指標：道路図面のGISへのリンクと下水管路データ等との一元化の準備			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	次年度予算などの実施準備を完了	都市計画図、下水管路データ、農林道網図等を一元管理できるよう改修する準備ができた	GISの活用、システム改修は、建設部が主体となって秘書広報課と連携して検討を進めた。 建設課では、統合前の準備として道路台帳をPDF化して路網図へリンクした	令和4年度に予算要求を行い（秘書広報課が主導）、現在使用している汎用統合型GISを、都市計画図、下水管路データ、農林道網図等を一元管理できるように改修する。 改修に当たっては、道路施設管理や市民への情報公開等も念頭に、道路愛護活動奨励事業の管理などもシステムが活用できるように関係職員の知恵を結集し、利便性の高いものとなるようにする。
3-③中国横断自動車道岡山米子線の全線4車線化と利用推進 市民が安全かつ短時間で広域的に移動でき、地域経済を支える人と物の流れを促進するために、中国横断自動車道岡山米子線全線の4車線化を推進します。 県や沿線市町と連携し、路線やインターチェンジの利用促進に取り組むとともに、引き続きNEXCO西日本等に事業の早期完成を要請して行きます。	指標：岡山道平均日交通量			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	平均 9,000台 /日	平均 7,335台 /日	岡山自動車道の沿線市町を中心に構成している「岡山自動車道利用促進協議会」では、利用促進の取り組み強化を図るため、今年度新たに新見市を会員に迎え、体制強化を図った。 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施しているイベントにおけるPR活動は実施できなかったが、その代替として、パンフレット「岡山自動車道周辺ガイド」を近隣の道の駅に配置した。	岡山米子間の全線4車線化が決定したが、引き続きNEXCO西日本等に事業の早期完成を要請するとともに県や沿線市町と連携し、路線やインターチェンジの利用促進に取り組む

3-④市道の舗装修繕 利用者が快適に安心して道路を利用するために、舗装長寿命化修繕計画に基づいて順次舗装修繕を実施します。 令和3年度は、調査路線137路線のうち、修繕を計画した58路線の最終年度分22路線16.9kmの舗装修繕を施工します。 対象路線 R1 20路線 実績 L= 7.2km R2 21路線 実績 L=12.2km R3 22路線 予定 L=16.9km 計 58路線 L=36.3km (重複路線あり) ※平成30年度策定の舗装長寿命化修繕計画は、3年計画(R1~R3)で終了。(公共施設等適正管理推進事業債によるもの)	指標：ひび割れ率40%以上区間解消率																							
	目標値	実績値	評価	次年度への課題																				
	100%	指標:ひび割れ率40%以上区間解消率 目標値:100%	詳細設計により、路線延長は短くなったが、3年にわたって計画した区間は100%実施することができた。	引き続き、令和30年度の調査結果をもとに路線を調査して老朽化が著しい路線や地元からの修繕要望を検討し、計画を見直すとともに修繕を進める。																				
3-⑤橋梁等の維持管理 交通の安全安心と橋梁等長寿命化のために、法定点検を実施し、将来にわたって修繕コストの縮減と予算の平準化を実現するために順次調査設計を行い計画的に修繕工事を施工します。鋼橋については、塗料のPCB及び鉛等の含有調査を行い、必要に応じて対策を実施します。 令和4年度以降も法定点検を継続し、必要に応じて長寿命化修繕等を実施して行きます。 【橋梁】 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>点検</td> <td>210</td> <td>218(206)</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>塗膜調査</td> <td>29</td> <td>10(12)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査設計</td> <td>22</td> <td>20(15)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>修繕着工橋梁</td> <td>7</td> <td>13(6)</td> <td></td> </tr> </table> () 内は目標 修繕計画 N=76橋 (R3.3現在) R2までの未修繕着工率 $(76-7)/76 = 91\%$ R3目標値 $(76-(7+6))/76 = 83\%$ 以下 R3実績値 $(76-(7+13))/76 = 74\%$		R2	R3	R4	点検	210	218(206)	206	塗膜調査	29	10(12)		調査設計	22	20(15)		修繕着工橋梁	7	13(6)		指標：修繕未着工率			
		R2	R3	R4																				
	点検	210	218(206)	206																				
塗膜調査	29	10(12)																						
調査設計	22	20(15)																						
修繕着工橋梁	7	13(6)																						
目標値	実績値	評価	次年度への課題																					
指標:未修繕着工率 目標値:83%以下	指標:未修繕着工率 74%	・橋梁点検において、小規模な橋梁は直営点検を行い、コスト縮減に努めた。 ・橋梁の塗膜調査は、積極的に業務を進め、事業を完了させた。 ・橋梁の修繕工事は、新たに対策が必要な橋梁を予算範囲で促進し、進捗を図ることができた。	・今後も点検の結果から長寿命化計画を見直して、修繕を進める必要がある。																					

4-①水道の漏水対策の強化 予防保全の観点から漏水・断水などの水道事故や費用の発生リスクを低減し、浄・配水コストの縮減と投資の平準化を図るため、老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に行い、水道水の安定的な供給と経営指標となる有収率の向上を目指します。 ※令和2年度 有収率84.5% ・勝山簡水月田地区の老朽管改良工事を実施 口径φ50～150（17工区・18工区・19工区）L=1,700m	指標：有収率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	86.5%	84.2%	事業計画どおり実施することができた。 ※目標値>実績値の要因：当該改良工事エリア外における漏水が多発したことにより有収率が低下したため。	引き続き老朽管の基幹改良を計画的かつ効率的に実施し、水道水の安定的な供給を図る。
4-②水道の施設更新の適正化・耐震化 災害対策や危機管理の観点から、浄水・配水施設の耐震化を推進するとともに、水需要に適應した供給能力の確保や施設規模の適正化を図るなど、適切な更新投資による経営の効率性・収益性の向上を目指します。 ※令和2年度 有収率87.8% ・久世黒尾配水池の更新工事を実施 配水池=1棟（ステンレспанネル式配水池 V=1,000m ³ ）※現容量：V=588m ³ 送・配水管（7工区、8工区、9工区）φ250mm～φ75mm L=1,700m	指標：有収率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	88.0%	88.1%	事業計画どおり実施することができた。	当面の大規模施設更新はないが、経営の効率性・収益性の向上を目指し、更新需要に対応した適切な整備を図る。
4-③水道の開栓・休止手続きの電子申請化 水道の開始・休止手続きについて、来庁することなく、24時間いつでも申請可能な電子申請を、MIT、広報紙、市ホームページのPR等により普及させ、働き盛り世代や市外在住者など、来庁しての手続きが困難な方の利便性を高めます。また、こまめな開始・休止を行いやすくなることで、長期不在時の予期しない漏水等のトラブル防止を図ります。 ※令和2年度 平均2件/月	指標：開栓・休止の電子申請数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	平均15件/月	平均7件/月	市の広報媒体を活用した周知により電子申請利用の普及啓発を図った。	今後も継続的な普及啓発に努める。

4-④水道料金の口座振替の推進 水道料金の収納について、口座振替への移行を推進し、水道利用者の料金納付の手間や納め忘れによる未納を減らすと共に、収納事務や収納コストの削減を目指します。 ・令和2年度：口座振替利用率 85.3% (全使用者16,421人/うち口座振替利用者13,999人)	指標：口座振替利用率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	86.3%	84.8%	市の広報媒体を活用した周知により口座振替の推進を図った。	今後も継続的な口座振替の促進に努める。
4-⑤下水道による水質保全 旭川の源流域にある真庭市は、下流域にきれいな水を供給する必要があります。下水道による生活排水の浄化により、河川環境の水質保全に努めます。 ・接続推進 ・下水道普及のPR(広報、浄化センター見学会など) ※水洗化率…下水道の整備区域内の人口のうち、下水道を使用している人口の割合 【令和3年度末】 ・水洗化率：65.0% (令和2年度末：63.3%、令和元年度末：60.7%) ・整備区域内人口：23,753人 ・下水道接続人口：15,441人	指標：水洗化率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	65.0%	65.0%	公共ます設置後、3年が経過した世帯に訪問し、接続推進を行い、接続に意思を確認することができた。	工事完了から時間が経つほど空家が増えるので、早期の接続推進が必要となる。

4-⑥ 下水道事業のコスト削減 一般会計から下水道事業会計への基準外繰入金削減のため、コスト削減に取り組みます。 【不明水の削減】 雨水等の不明水が流入することで、必要以上に処理費用が発生しています。雨水流入箇所の調査・修繕により不明水を抑制し、処理費用を削減します。 ※有収率…浄化センターで処理した水量のうち、収入の対象となる水量の割合(令和2年度80.4%、令和元年度79.1%) 【口座振替の推進】 下水道使用料を納める方にとっては、納め忘れが少なく、市にとっては納付書よりも収納事務が少ない口座振替を推進することで、収納コストを削減します。 ・全使用者6,878人 ・口座振替利用者5,587人 【令和3年度実績値】 ・有収率88.5% ・口座振替利用率80.7%	指標：①有収率、②口座振替利用率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	① 82.0% ② 82.5%	① 88.5% ② 80.7%	【不明水の削減】 宮地地区で約3,600mの管路施設を更新し、不明水の減少が確認できた。 【口座振替の推進】 振替口座登録のない使用者200人に口座振替納付勧奨チラシを郵送し、その効果を検証したが、今回は十分な効果が確認できなかった。	【不明水の削減】 宮地地区以外においても、大雨時に高水位が発生するマンホールポンプ施設について、原因の調査が必要。 【口座振替の推進】 今のところ納付率向上には口座振替利用率向上が有効なので、勧奨方法を工夫し、更なる利用率の向上に努める。
4-⑦ 下水道施設の効率化 ・下水道ストックマネジメントに基づき、中長期的な視点で、浄化センターや排水処理施設の状況を予測しながら計画的・効率的に更新を進め、持続的な下水道機能の確保とコスト低減を図ります。 ・農業集落排水施設は市内に6施設あり、設置後20年を超える施設もあるため、現行施設の維持だけでなく、施設の統合等を検討して、効率的な運営管理を目指します。	指標：最適整備構想改定			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	年度内	年度内	・下水道ストックマネジメント計画に基づき、久世浄化センター電気工事、蒜山第2浄化センター設計を進めた。 ・農業集落排水は、施設の統合にむけた事前の手続き・機能診断実施・最適整備構想の改定ができた。	・工事費の高騰が起きているため、ストックマネジメント計画の更新が滞る可能性が出てきているため、投資額想定の見直しが必要。 ・計画的な更新よりも先に故障等による緊急修理更新が多くなってきている。

4-⑧市設置浄化槽の使用者への譲渡 一般会計からの繰入金の抑制を図るため、市設置型浄化槽から個人への譲渡契約を進め、令和6年度に市町村設置浄化槽の譲渡完了を目指します。 ・市町村設置浄化槽：893基 ・令和3年度末譲渡契約基数：845基(契約率94.6%) ・譲渡契約未契約：48基 【浄化槽事業一般会計繰入金】 ・令和4年度49,752千円(予算) ・令和3年度53,886千円(決算見込) ・令和2年度62,300千円(決算) ・令和元年度67,800千円(決算)	指標：一般会計繰入金額			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	対前年 ▲6,927 千円	対前年 ▲8,414 千円	設置後10年となる利用者と譲渡契約を結ぶために今年度の対象者全戸の訪問を丁寧に継続し契約につなげた。	・着実に譲渡を進めているものの、どうしても契約に応じていただけない利用者もある。 ・R7.4.1譲渡完了(目標)後に未契約の利用者についての将来対応の方針検討が必要。
5-①自然再生エネルギー設備の導入促進によるゼロカーボン化の推進を図る 公共建築物への自然再生エネルギー設備(太陽光発電設備等)の検討を行うため設置可能性調査を実施します。	指標：検討実施			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	年度内	完了	太陽光発電システム導入に係る検討を行い、設置可能な施設を検討した。 ・23施設	林業・バイオマス産業課エネルギー政策室にて引き続き検討する。